

「日本補綴歯科学会誌」投稿の手引き

公益社団法人 日本補綴歯科学会

2022年（令和4年） 5月11日改定

「日本補綴歯科学会誌」投稿の手引き

日本補綴歯科学会誌への投稿では、投稿規定のほかは本手引きに準拠する。

I. 投稿方法の概要

1. 投稿は、日本補綴歯科学会事務局学会誌編集担当宛へEメールにより送信する。
2. 第1稿投稿時の要提出書類は①原稿、②投稿票、③承諾書の三つである。チェックリストの送付は必要ない。
投稿票には、論文の種別（○で囲む）、表題、著者名、筆頭著者生年月日、所属、連絡先（氏名、住所、電話番号、Fax番号、電子メールアドレス）、原稿枚数、図枚数、表枚数、別刷希望部数を記入する。
承諾書には著者全員の署名を行う。チェックリストに記載された各項目について確認し、著者のチェック欄に「✓」印を入れる。
承諾書は署名・捺印済みのものをPDFファイル化して補綴学会事務局へ電子メール送信するか、プリントアウトしてファックス送信もしくは郵送する。
3. 原稿は次の順に作成し、番号ごとに改頁する。
表題の頁を第1頁とし、頁番号を下段中央に記す。表、図も原則同一ファイルに貼りつける。
 - 1) 表題（和文、英文）、（ランニングタイトル）、著者名、所属
 - 2) 和文抄録、和文キーワード
 - 3) 英文抄録、英文キーワード
 - 4) 本文原稿
 - 5) 文献
 - 6) 図表のタイトルおよび説明（英文、和文）（英文原稿の場合は英文のみ）
 - 7) 表、図（写真を含む）

II. 投稿原稿の書き方

1. 原稿ファイル種類
MS Word(97-2003 文書以降を使用すること)
2. 査読原稿の種別
査読を受ける原稿の種別は、総説、原著論文、症例報告、技術紹介、調査・資料とする。英語で記載された論文も受け付ける（英文論文の場合は「Journal of Prosthodontic Research」の投稿規定に記載された書き方に準じるので、同誌のホームページ（<https://www.sciencedirect.com/journal/journal-of-prosthodontic-research>）を参照のこと）。
3. 原稿の様式
 - 1) 原稿は、口語体、新かなづかい、平かな、横書きとし、文字サイズ 12 ポイント程度を原則とする。なお、全角 2000 字程度で刷り上がり 1 頁に、また、図表は各 1 枚が標準のサイズ（本誌の片段に収まるもの）6 枚で刷り上がり 1 頁に相当するので、原稿作成時の参考にする。
 - 2) 数字、英字はすべて半角で入力する。英文では Arial もしくは Times New Roman フォント、12 ポイント以上の大きさの文字を用いてダブルスペースで作成する。スペースは半角にする。
4. 原稿の記述様式
 - 1) 表題
表題は 40 文字以内とする。表題が 35 字を超えるものは、柱（ランニングタイトル）用として 35 字以内の表題を第 1 頁下段に記載する。表題には原則として略号を用いない。万一用いる場合には、抄録および本文中の初出時に、正式名称と略号を併記する。
 - 2) 和文抄録および英文抄録
和文抄録および英文抄録は、原則として以下の 4 項目を太字で項目立てし、要約を全体でそれぞれ 500～600 字および 200～300 words で簡潔に記載する。なお、抄録の末尾に字数および word 数をそれぞれ記載する。抄録には原則として略号を用いない。万一用いる場合には、初出時に、正式名称と略号を併記する。

(1) 総説

和文抄録：目的，研究の選択，結果，結論

英文抄録：Purpose, Study selection, Results, Conclusions

(2) 原著論文

和文抄録：目的，方法，結果，考察，結論

英文抄録：Purpose, Methods, Results, Discussion, Conclusions

(3) 症例報告

和文抄録：症例の概要，考察，結論

英文抄録：Patient, Discussion, Conclusions

(4) 技術紹介

和文抄録：目的，材料と方法，考察，結論

英文抄録：Purpose, Materials and methods, Discussion, Conclusions

(5) 調査・資料

和文抄録：目的，方法，結果，考察，結論

英文抄録：Purpose, Methods, Results, Discussion, Conclusions

3) 和文および英文キーワード

キーワードは和文，英文ともに 5 つ以内とし，略号を用いてはならない。

4) 本文の構成および記述法

(1) 総説

原則として本文刷り上がり 8 頁以内(本文の文字数，図表の大きさの目安はⅡ-3. 参照)とする。総説論文は，ある特定の論題について読者の役に立つ情報を紹介し，要約しようとするものである。

対象とする領域の背景やこれまでの研究成果を正確に紹介するものとし，参考文献の採択に特に配慮する。その際に，著者の独善的な意見やバイアスによって大きく影響を受けることがないようにする。また，情報を探し，選択し，まとめるために用いられた手法が記載されていることが望ましい。

(2) 原著（基礎研究，臨床研究）

原著論文は，研究の新規性が高く，客観的な結論が得られ，歯科補綴学の発展に寄与するものであること。原則として刷り上がり 10 頁以内(本文の文字数，図表の大きさの目安はⅡ-3. 参照)とする。

<原著論文の構成>

- a. 緒言：研究の背景や新規性，研究目的および研究の意義が明確に理解できるように記述する。
- b. 研究方法（材料と方法）：使用した材料や装置，あるいは方法を明確に記載し，同一の方法で追試が行えるように，わかりやすく記述する。また，実験条件の設定，試料の数や抽出法，統計処理等が，研究目的に合致していること。
- c. 結果（成績）：客観的事実のみを記述し，著者の主観を交えたような表現を避ける。計測結果は図表による表示を原則とし，平均値と標準偏差などの特性値を併記する。有意差検定，多重比較等については後述の「計測データとその取り扱い」を参照。
- d. 考察：方法，結果などについて，従来の文献を参考に十分推敲を重ね，独断的にならないように，また論旨が飛躍しすぎないように注意する。さらに，研究目的に対する考察に的を絞る，総論的な考察は避ける。また，得られた結果のみではなく，それが歯科補綴学にとってどのような意義があるのかも記述する。緒言との重複や結果の繰り返しの記載は避ける。
- e. 結論（総括）：得られた結論のみを正確かつ簡潔に記述する。その際，緒言で提示した研究目的や仮説との整合性に注意する。

(3) 症例報告

補綴臨床において定説となっている診断法、治療法、治療術式の修正等についての提言、あるいは、きわめて珍しい症例、予期せぬ合併症、予期せぬ展開をみた症例についての報告等が該当する。読者が同様の症例を治療する際の参考となるよう、症例について具体的かつ簡潔に記述する。原則として本文刷り上がり 6 頁以内(本文の文字数、図表の大きさの目安はⅡ-3. 参照)とする。

<症例報告の論文構成>

- a. 緒言：症例の歯科臨床における位置づけや特徴に触れ、抽出された問題点を述べ、その症例がなぜ報告に値するのかを明確に述べる。
- b. 症例の概要：診査・検査所見、診断と治療方針、治療、経過など、症例の概要について具体的かつ簡潔に記述する。その際、読者の理解を容易にするため、必要に応じて小見出しを用いてもよい。
- c. 考察：関連のある重要な文献を引用し、報告する症例について議論する。症例、治療、経過の特徴に触れ、その症例の補綴学的位置づけについても言及する。
- d. 結論：読者の臨床に役立つ点を示唆する記述を含む。

(4) 技術紹介

新しい臨床術式や研究法あるいは材料の使用法などを紹介するもので、原則として刷り上がり 6 頁以内(本文の文字数、図表の大きさの目安はⅡ-3. 参照)とする。新製品紹介や単なる技術情報ではなく、著者の提案する改良・改善によって、治療の有効性、安全性、長期安定性あるいは機材の性能等がより向上することが記述されている必要がある。

<技術紹介の論文構成>

- a. 緒言：紹介する技術(術式、研究法、使用法など)の目的を明確に記載する。
- b. 材料とその使用法：材料、装置、使用法、方法、術式等について、明確に、順序立てて、わかりやすく記述する。
- c. 従来の方法との違い：従来法と異なる新工夫・新規性に関して要点を絞り、簡潔に記載する。特に、著者が開発あるいは工夫した点について、明確に記載する。
- d. 効果あるいは性能：改良・改善によって得られる、術式や治療の有効性、安全性等の向上について、明確に記述する。また、紹介する術式の利点・欠点についても記載する。
- e. 結論：従来法と異なる新工夫・新規性、改良・改善された点、およびその効果等について、得られた結論のみを正確かつ簡潔に記述する。

(5) 調査・資料

診療統計を含む調査結果などを整理した内容で、独自性が強いもの、および歯科補綴学の進歩に必要な情報が提示されているものであること。予備的研究(小規模な調査や試験的研究など)も含むものとする。原則として刷り上がり 6 頁以内(本文の文字数、図表の大きさの目安はⅡ-3. 参照)とする。

<調査・資料の構成>

- a. 緒言：調査の背景や新規性、目的および意義が明確に理解できるように記述する。
- b. 方法：調査方法を明確に記載し、同一の方法で追試が行えるように、わかりやすく記述する。また、条件の設定、試料の数や抽出法、統計処理等が、研究目的に合致していること。
- c. 結果：客観的事実のみを記述し、著者の主観を交えたような表現を避ける。調査結果は図表による表示を原則とし、平均値と標準偏差などの特性値を併記する。有意差検定、多重比較等については後述の「計測データとその取り扱い」を参照。
- d. 考察：方法、結果などについて、従来の文献を参考に十分推敲を重ね、独断的にならないように、また論旨が飛躍しすぎないように注意する。さらに、調査目的に対する考察的を絞り、総論的な考察は避ける。また、得られた結果のみではなく、それが歯科補綴学にとってどのような意義があるのかも記述する。緒言との重複や結果の繰り返しの記載は避ける。
- e. 結論(総括)：得られた結論のみを正確かつ簡潔に記述する。その際、緒言で提示した調査目的や仮説との整合性に注意する。

5) 文献の記載様式

- (1) 本文で引用した順序に一連番号を付して列記し、本文の末尾に記載する。同一箇所でも複数引用した場合は年代順とする。
- (2) 著者名は姓、名（外国人はイニシャルのみ）の順とする。
- (3) 共著の場合は筆頭者を含め 6 名まで記して、7 人目からは、「ほか」または [et al.] と略す。ただし、編集委員会が認めれば 7 名以上を記載することができる。
- (4) 引用文献の表示は原著の表示に従う。英文の場合は、文頭の語の頭文字のみ大文字とする。
- (5) 雑誌文献引用記載は次の方式による。
 - a. 雑誌論文は著者・表題・雑誌略名・発行年（西暦表示とする）；巻：頁-頁。の順に記載する。頁は通巻頁を原則とするが、頁表記が 1 号ごとに第 1 ページから始まる（通し頁でない）雑誌に限り、号も記載する。
 - b. 雑誌の略名は当該誌が標榜する略称（付：学術雑誌略号一覧参照）とする。それ以外は医学中央雑誌の略名表と Index Medicus に準拠する。
 - c. 原書あるいは原論文が得られずに引用する場合は、末尾に（から引用）と付ける。
 - d. 受理されたが未発刊の文献は末尾に印刷中（英文の場合は、in press）と記載する。
 - e. Web ページの引用記載様式は、Vancouver style とする。

一般例：

笛木賢治，大久保力廣，谷田部優，荒川一郎，有田正博，井野智ほか．熱可塑性樹脂を用いた部分床義歯（ノンメタルクラスプデンチャー）の臨床応用．日補綴会誌 2013；5：387-408.
山崎彰啓，清水政利，黒崎俊一，湯浅 智，谷津 悟，藤森克俊ほか．印象採得法の臨床的検討．補綴誌 1988；32：403-8. （※2008年以前の学会誌名は「補綴誌」）
Beresin VE, Schiesser FJ. The neutral zone in complete denture. J Prosthet Dent 1976;36:356-7.
Cancer Research UK. Cancer statistics reports for the UK,
<<http://www.cancerresearchuk.org/aboutcancer/statistics/cancerstatsreport/>>;
2003 [accessed 13.03.03].

通し頁でない雑誌の例：

竹山守男，樫淵信郎，中林宣男，増原英一．歯科用即硬性レジンに関する研究（第17報）歯質および歯科用金属に接着するレジン．歯理工誌 1978；19（47）：179-85.
O'Neal SJ, Leinfelder KF, Barrett CE. Clinical evaluation of Dentacolor as a posterior veneering agent. J Esthet Dent 1989;1(1):29-33.

- (6) 単行本文献引用記載は次の方法による。

- a. 単行本は著者・書名・発行地：発行者；発行年，頁-頁。の順に記載する。
- b. 単行本の書名は略記しない。
- c. 単行本を 2か所以上で引用する際は、各々の引用頁を記載する。

例：

藤田恒太郎．歯の組織学．東京：医歯薬出版；1958，122-30.
Glickman I. Clinical Periodontology. Philadelphia: Saunders; 1953, 76-8.
Shillingburg HT, Hobo S, Whitsett LD, Brackett SE. Fundamentals of fixed prosthodontics, 3rd ed. Chicago: Quintessence; 1997, 155-69, 211-23.

分担執筆の単行本文献引用記載は次の方式による。

分担執筆の単行本は分担執筆者・分担執筆の表題・编者または監修者，書名，巻などの区別，発行地：発行者；発行年，頁-頁。の順に記載する。

例：

津留宏道．テレスコープシステムの理論と実際．林都志夫，保母須弥也，三谷春保ほか編，日本の補綴，東京：クインテッセンス出版；1981，277-91.
Ogle RE. Preprosthetic surgery. In: Winkler S, editor, Essentials of complete denture prosthodontics, Philadelphia: Saunders; 1979, 63-89.

- (7) 翻訳書文献引用記載は次の方式とする。

翻訳の単行本，論文は著者（翻訳者）．書名（翻訳書名．発行地：発行者；発行年，頁-頁．），発行年。の順に記載する。

例：

Hickey JC, Zarb GA, Bolender CL (川口豊造). Boucher's prosthodontic treatment for edentulous patients (バウチャー無歯顎患者の補綴治療. 東京：医歯薬出版；1988, 397-9.), 1985.

6) 表と図の書き方

- (1) 図表の枚数は必要最小限にとどめる.
- (2) 図表は英文で作成する. 図表のタイトルおよび説明文についても英文で作成し, 和文を併記する.
- (3) 表と図 (写真を含む) は本文で引用順に, 表は表 1, 表 2..., 図 (写真を含む) は図 1, 図 2...のように一連番号をつけ, 原稿ファイルに貼りつける. 図表 1 枚ごとに改頁する.
- (4) 原稿ファイルの総データサイズが15 メガバイト(MB)未満となるよう可能な範囲内でできるだけ鮮明に図表の画像データを調整する. もし画像解像度が著者の満足する水準に至らない場合は, 投稿論文受領後, 出版前最終校正時に所望する画像データを学会事務局担当者へ送付する.

7) その他論文作成上の留意事項

- (1) 見出しは次の順に項目をたて, 順に行の最初の一面をあける.

I, II, III, IV, V,

1, 2, 3, 4, 5,

1), 2), 3), 4), 5),

(1), (2), (3), (4), (5),

a, b, c, d, e,

a), b), c), d), e),

(a), (b), (c), (d), (e),

- (2) 材料, 器材の表記は, 一般名 (製品名, 製造社名, 所在地, 国名) を原則とする. 製造社名は, 法人格 (株式会社など) は除く会社名を記載する. たびたび使用する場合は, 2回目以後, 一般名のみの表記としてもよい.

例：

即時重合レジン (ユニファスト, ジーシー, 東京, 日本)

- (3) 歯学学術用語については, 令和元年公益社団法人日本補綴歯科学会発行の「歯科補綴学専門用語集 (第5版)」に準拠する.
- (4) 用字用語については, 本学会ホームページに詳細が掲載されているので参照のこと.
https://hotetsu.com/s4_09.html
- (5) 計測データとその取り扱い：計測データは, 原則として, 平均値, 標準偏差等の統計値を用いて表現されるべきである. また, データの属性や分布に応じて, 適切な統計解析を行わなければならない. 詳細については「統計解析のガイドライン」を参照する.
- (6) 数字は算用数字とする.
- (7) 数字を含む名詞, 形容詞, 副詞 (例：十二指腸, 三角形など) は漢数字とする.
- (8) 単位は原則として国際単位系の基本単位, 補助単位および組み立て単位を使用する (温度は摂氏を使用する).
参照：単位及び単位間換算表：日本金属学会編 (及川洪). 「改訂二版金属データブック」(1984) 丸善 (株)
SI 単位換算表：日本歯科材料工業協同組合編. 「ガイドブック」1992 年版 日本規格協会
- (9) 略語, 略号は国際的に慣用されている用語を使用する.
- (10) 外国語はすべて原綴りとし, 文頭にあっては必ず大文字にしない. ただし, 固有名詞は最初の文字を大文字で書く.
- (11) 英文の改行に際しては, word で切る.

- (12) 微生物、動植物などの学名は、二名法によりイタリックとし、最初の文字だけ大文字で書く。
たびたび使用する場合は、2 回目以後属名を省略してもよい。

例：*Streptococcus mutans*→ *S. mutans*

- (13) 英文原稿の綴りは米国語綴りを基本とする。

- (14) 歯式の記載方法

- a. 本文中の表記は、上下顎、左右側、歯種の順とする。

例：上顎右側第一大臼歯

- b. 理解の補助のために歯式記号を付記することを勧める。

- c. Zsigmondy/Palmer 式の歯式表記法（以下歯式記号と略す）を勧める。

例：上顎右側第一大臼歯（6）

この場合、歯式に用いる特殊記号・外字などは、現時点では電子ファイルを介しての伝達が困難であることに注意する必要がある。

- d. 省略形は避けて、歯式記号とする。

例：右上6番は、6と記載する。

- e. ブリッジなど表現が難しい場合は、歯式記号表記のみでもよい。

例：③4⑤⑥

- f. 図・表中の表記は、できるだけ、歯式記号を用いる。

- g. 表題には原則として歯式記号を用いない。

III. 投稿論文の評価項目

投稿論文の査読に際しては、以下にあげる評価項目について評価を行うこととする。

1. 研究内容

- 1) 日本補綴歯科学会雑誌との適合性
- 2) 研究内容の新規性

2. 研究の意義と目的

- 1) 研究の意義と目的の提示
- 2) 表題の適切性

3. 研究方法

- 1) 研究方法の適正性
- 2) 統計処理の適正性

4. 研究結果

- 1) 得られた研究結果の客観性、再現性ならびに信頼性5.

考察

- 1) 研究結果の意味の提示

（「研究結果の意味」：「研究結果」が表している内容、あるいはそれから汲み取ることのできる内容）

- 2) 研究結果の意義の提示

（「研究結果の意義」：「研究結果」が他の研究や臨床などとの関連において持つ価値・重要性）

- 3) 考察項目の適切性と論理性

6. 結論

- 1) 研究目的との整合性と正当性

7. 論文

- 1) 投稿規定との適合性

- 2) 内容提示（記述、図、表〔図表の英語表記を含む〕）の正確性と適正性（理解の容易さ、長さ、数）

- 3) 文献引用の適正性

8. その他

IV. 利益相反状態の記載

本会の定める「研究の利益相反に関する指針」および細則に従い、利益相反（COI）状態が存在する場合は様式 2-B 日本補綴歯科学会誌：自己申告による COI 報告書）を用いて事前に学会事務局へ届け出ることとする。また、COI 状態を謝辞または文献の前に利益相反と項目立て記載する。規定された COI 状態がない場合は、「開示すべき利益相反はない。」と記載する。

V. 論文作成費用

- 1) 掲載料（原稿種類別の掲載制限頁については投稿規程 5 の 3）を参照のこと。）
 - ①編集委員会から依頼した総説，または，依頼論文は無料。
 - ②投稿した原著，技術紹介，症例報告は，1～6 頁（白黒印刷：6,650 円／頁，カラー印刷：18,000 円／頁），7～10 頁（白黒印刷：14,000 円／頁，カラー印刷：18,000 円／頁）。ほかに，英文添削代（標準：3,000 円）。
- 2) 別刷
 - ①編集委員会から依頼した総説，または，依頼論文の別刷は 100 部までを無料とし，101 部以上の場合の費用は，別表に示す。ただし送料は無料とする。
 - ②投稿した原著，技術紹介，症例報告の別刷は 50 部以上とし，費用は別表に示す。ほかに別刷作成費表紙として 4,980 円，送料を 1,500 円とする。

別表

部数/頁数	1～4 頁	5～8 頁	9～12 頁	13～16 頁
50 部	8,000	8,700	9,400	10,100
100 部	9,000	9,700	10,400	11,100
150 部	10,000	10,700	11,400	12,100
200 部	11,000	11,700	12,400	13,100
250 部	12,000	12,700	13,400	14,100

（カラー刷り，17 頁以上および 250 部以上は別途見積。）

VI. 学会誌掲載時の校正

1. 学会誌掲載時の校正は著者が行う。学会事務局から電子メールで著者に送付される PDF ファイルの校正用原稿に，日本工業規格（JIS Z8280-1965）に準拠した形式で校正を行う。（付：校正記号表参照）。
2. 校正を終了した原稿は，電子メールもしくはファックスで速やかに返送する。

VII. 連絡・問い合わせ先

東京都港区芝 2-29-11 高浦ビル 4 階
（公社）日本補綴歯科学会事務局学会誌編集担当
Tel：03-6722-6090
Fax：03-6722-6096
e-mail：jpr-edit01@hotetsu.org